

平成8年11月30日

豊島区立仰高小学校創立120周年記念開催される ～地元の人々のボランティアにより祝賀会盛大に行われる～

冷え込みが一段と厳しくなった今日、その寒さを忘れるような熱気が会場をおおった。

豊島区内で、もっとも古く創立された区立仰高小学校（豊島区駒込5-1-19・近藤進校長）が創立120周年を記念して加藤一敏豊島区長をはじめ多数の来賓をあつめ式典を行った。式典の中では在校生5、6年生が一生懸命に練習したお祝いの歌を披露。前日のリハーサルではあまりうまくいかなかったものの本番では、あまりのすばらしい歌声に来賓者から盛大な拍手を浴びた。長谷川一恵教頭が「今日はハナマルですよ」と生徒たちに声をかけると、生徒たちはパンザイをして喜びを表現していたという。

仰高小学校は明治9年8月11日、浄土真宗・長源寺の庫裏を借りて産声をあげた。開校時の名前は「第一大学区第四中学区第十八番公立仰高小学校」。生徒数は当時約70名であった。

その後、改名や移転、戦争による苦難の学童疎開を経て戦後を迎える。昭和48年2月、今の校舎となり、現在に至っている。生徒数も昭和24年には1000名を越えた時代もあったが、今では289名。

今回の120周年の目玉となったのは式典後の祝賀会。会場は式典を行った体育館から校庭に場所を移し、「これまでの堅苦しいセレモニーで終わるのではなく、地元の人々や子供たちなどの大勢が仰高小学校の120周年と一緒に祝いたい」という声により「お祭り広場」として祝賀会を開催したものである。

当日は約1000人の人々がつめかけ、無料で出される焼きそば、おでん、おしるこなどの屋台や、輪投げ、射的、パターゴルフなどの出し物で楽しんだ。これらの準備、設営、あとかた付けなどは、すべて地元の商店会やPTAなどによるボランティアで行われた。まさに学校と町が一体になって仰高小学校の120周年をお祝いしたのである。

伝統ある仰高小学校の120周年記念は無事、盛大に終わった。

問い合わせ先 仰高小学校